

へと、今日まで飲みつがれてきている。

2 市水道の概要と浄水場の現状

宇治市における給水は、購入している「府営水」（琵琶湖―宇治川が原水）と市内6カ所の「自己水」（地下水）でまかなわれている。1日の給水能力は95,300トン。内訳は、府営水62,800トンと自己水32,500トンで、その比率は約2：1である。市は、自己水比率三分の一確保を基本方針としている。その概要は資料1の通りである。

資料1「市議会建設水道常任委員会資料」平成18年12月21日

＜自己水と府営水＞

両浄水場の休止の時期については、平成19年3月末日を予定しております。

課題点として、自己水の計画能力が32,500㎥/日から28,300㎥/日になり4,200㎥/日減少することになりますが、両浄水場休止により減少する実質配水量は、平成17年度実績において1500㎥/日の減少になります。自己水源は現状能力を確保する必要がありますと考えております。今後、現状確保する方向で検討を進めたいと考えています。

名称	計画能力		平均配水量 (H17年度実績)		休止後計画能力	
	㎥/日		㎥/日		㎥/日	
全体	95,300	100.0%	63,055	100.0%	91,100	100.0%
府営水	62,800	65.9%	42,713	67.7%	62,800	68.9%
自己水	32,500	34.1%	20,342	32.3%	28,300	31.1%
宇治浄水場	20,700	21.7%	14,237	22.6%	20,700	22.7%
西小倉浄水場	5,000	5.2%	3,518	5.6%	5,000	5.5%
横島浄水場	2,700	2.8%	810	1.3%	0	0.0%
神明浄水場	1,600	1.7%	783	1.2%	1,600	1.8%
開浄水場	1,500	1.6%	690	1.1%	0	0.0%
奥広野浄水場	1,000	1.0%	304	0.5%	1,000	1.1%

現在市水道部が、廃止・休止・統合等を検討対象にしているのは、市内全域の6浄水場のうち5浄水場である。市水道部は、給水に問題はないが、地下水（原水）の汚染が進行していると見て、次のように述べている。

資料2「宇治市水道部における地下水汚染対策について」水道部 平成18年11月7日

1 開浄水場

平成17年度の水質は、原水でトリクロロエチレンが最大値0.092mg/L、平均値0.054mg/Lと環境基準値0.03mg/Lを超過している。テトラクロロエチレンは最大値0.011mg/L、平均値0.007mg/Lで、最大値で環境基準値の0.01mg/Lを超過している。給水では基準値をクリアしているが、原水で環境基準値を超過している状況から、18年度に廃止の検討に入り、19年度の早い時期に廃止の決定を行う。